

第 3 委員会報告資料

埋蔵文化財センターの収蔵スペースの
確保について

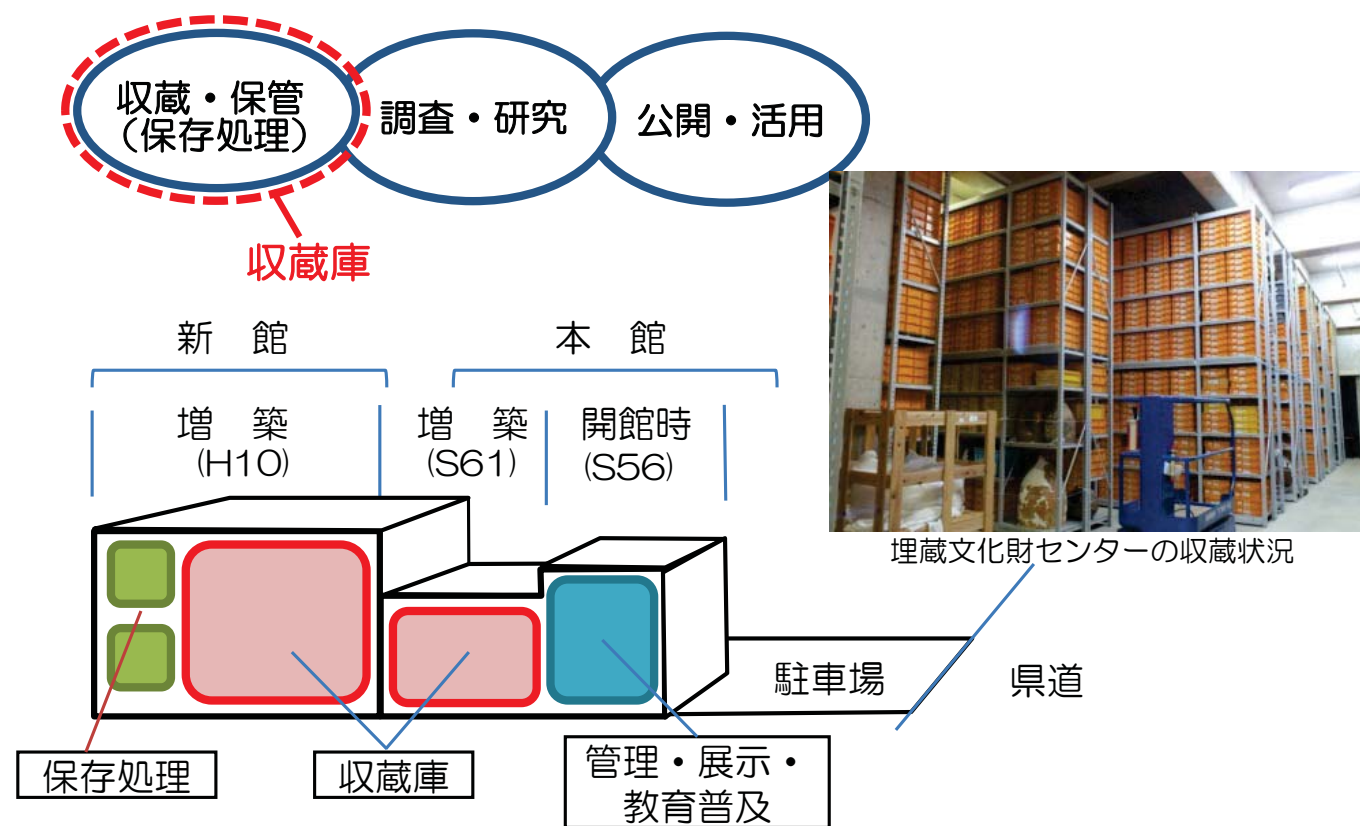
平成 26 年 12 月
経済観光文化局

埋蔵文化財センターの収蔵スペースの確保について

1 埋蔵文化財センターにおける遺物収蔵の現状と課題

(1) 埋蔵文化財センターの概要

市内の発掘調査で出土した遺物や発掘調査で作成した図面・写真等の記録類を収蔵・保管し、調査・研究し、広く公開・活用する施設として、博多区井相田2丁目に、昭和57年に開館した。



(2) 遺物収蔵の現状と課題

現在の年間収蔵量（5,000箱/年）の推移に基づけば、平成29年度には、収蔵庫は満杯となり、収蔵スペース（現スペースは17万箱）が不足する。

※ 年間収蔵量は過去10年間の平均

過去5年の収蔵数の推移

(単位：箱)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
収蔵数	6,090	6,131	4,620	5,500	8,838
総収蔵数	120,141	126,272	130,892	136,392	145,230

※ 別途九州大学に仮置遺物4,000箱があり、これを収蔵する必要がある

2 収蔵スペースの不足への対応

(1) 比較検討

収蔵スペースの不足に対応するため、埋蔵文化財センター新館の上に増築する案と旧福岡政府倉庫を取得する案について、比較検討した。

比較表

区分	新館の上に増築	旧福岡政府倉庫を取得
事業費	1,181百万円	2,072百万円
国庫補助	51百万円	136百万円
市負担額	1,130百万円	1,936百万円
収蔵可能年数	17年	46年
市負担額/収蔵可能年数	66百万円	42百万円

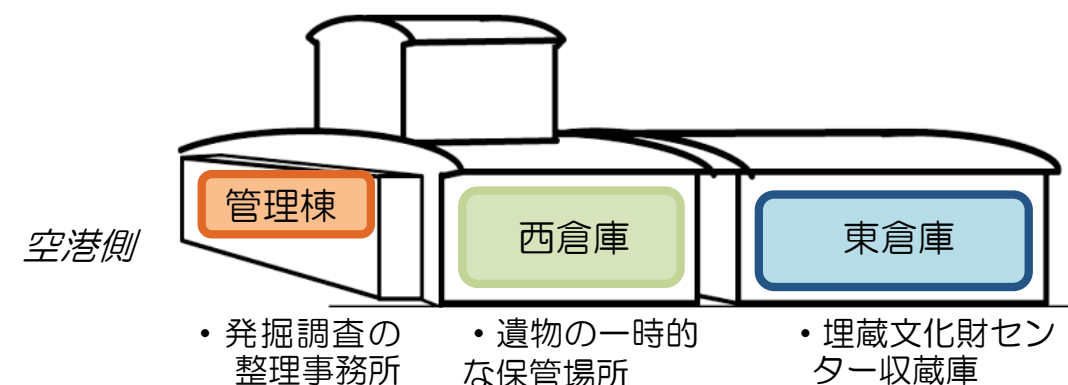
(2) 結論

旧福岡政府倉庫を取得し活用する場合、

- ・収蔵スペースが広いので、収蔵可能年数が長い
- ・市負担額を収蔵可能年数で割った費用対効果が高い。
- ・建物や敷地が広く、将来増設などの必要が生じた場合に対応できる。

また、埋蔵文化財センターから直線距離で2.2キロ、道路上の距離で2.6キロと近いので、収蔵遺物を管理する上で、支障は生じない。

以上の点から、旧福岡政府倉庫を取得し活用する案が適当である。



3 旧福岡政府倉庫の取得までのスケジュール案

26年度		27年度		28年度	
上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
	12月第3委員会報告		土地・建物鑑定評価	契約締結(条件付)	
	27年度関連予算案提出	土地・建物売却申請書提出	28年度(土地・建物取得)予算案提出	契約議案提出	土地・建物取得

(参考)

1 旧福岡政府倉庫の概要

旧福岡政府倉庫は、平成6年度から農林水産省の穀物倉庫として利用されていたが、平成22年度に使用が廃止された。
このため、平成25年度7月に売却を前提とした公共利用の募集が行われた。

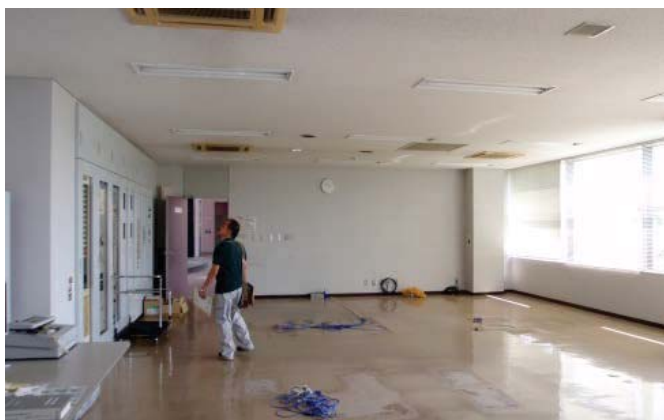
- 所在地 福岡市博多区月隈1丁目378番3外4筆
- 敷地面積 24,974㎡
- 建物 建築面積 8,347㎡
延床面積 8,639㎡
(管理棟1F・2F 1,047㎡ 西倉庫2,916㎡ 東倉庫3,804㎡他)
- 帳簿価格 約18億円(土地約14億円・建物約4億円)



旧福岡政府倉庫の位置



旧福岡政府倉庫の外観

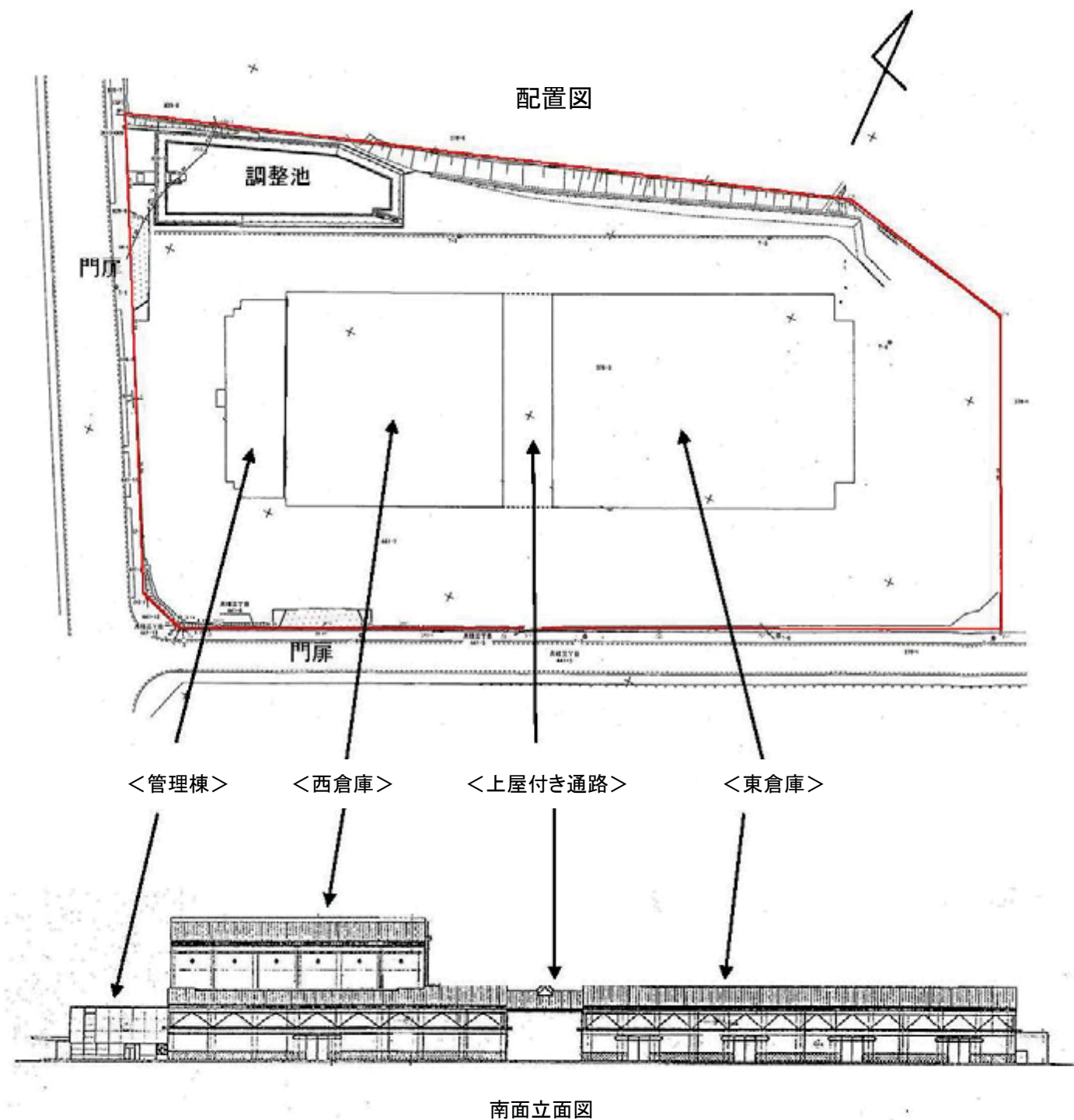


管理棟 一階



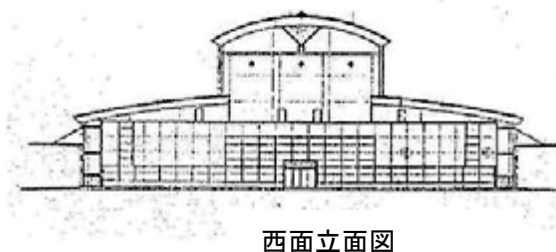
東倉庫 内部

旧福岡政府倉庫 配置図・立面図



2 埋蔵文化財センターの概要

- 所在地 福岡市博多区井相田2丁目1番94号
- 敷地面積 7,481㎡
- 建物 建築面積 3,987㎡
延床面積 10,713㎡
(収蔵庫面積 8,088㎡)



西面立面図



東面立面図